

平成28年度

胎内市の教育



学校・家庭・地域が共に手を携え
子どもたちの健やかな育成に力を注ぎましょう

目指す教育

次代を生き抜く力を持ち、
ふるさとを愛し、誇りに
思う子どもを育てましょう

子どもに夢と希望を育む、
輝く地域を創りましょう



～ ふるさと体験学習 ～

【胎内市の基本理念】

「自然が活きる、人が輝く、交流のまち」

【胎内市教育委員会の基本理念】

「教育は人をつくり、地域をつくる崇高な営み」

胎内市教育委員会



胎内市の目指す教育理念 教育は人をつくり、

胎内市教育

健康な心身の醸成

1 スポーツや芸術・文化を楽しむ教育

- ◆子どもの体力向上
- ◆生涯スポーツの推進
- ◆競技スポーツの振興
- ◆芸術・文化の振興

2 安全教育と健康教育

- ◆防災教育の推進
- ◆健康教育の推進
- ◆食育の推進



豊かな人間性の確立

3 心豊かで広い心を持つ人材の育成

- ◆心豊かな人材の育成
- ◆家庭と地域が連携した社会性の育成
- ◆国際感覚を育む教育の実践
- ◆キャリア教育の推進



地域をつくる崇高な営み



振興基本計画

確かな学力の修得

4 学ぶ子どもの育成

- ◆学力向上の取組
- ◆学校運営の改善
- ◆特別支援教育の推進



ふるさとを誇りに思う人間の育成

5 ふるさとを学び、ふるさとをつくる教育の推進

- ◆ふるさと教育の推進
- ◆文化財の活用と保護

6 安全な環境教育の整備

- ◆安全・安心な教育環境の整備

7 活力あるコミュニティの形成

- ◆学びを通じたコミュニティの再構築



平成28年度 胎内市の

地域とともに歩
【コミュニティ・スク

学校教育の重点施策

む学校づくり
ールの調査・研究】

あいさつの習慣化

〈成果目標〉
誰とでも明るくあいさつを交わすことができると答える児童生徒の割合が80%以上

- ◆毎月10日を「胎内市あいさつの日」とし家庭・地域と連携したあいさつ運動
- ◆小中合同のあいさつ運動
- ◆市の防災無線でのあいさつの呼びかけ

あいさつの習慣化

確かな学力の定

キャリア教育の推進

園・小・中学校の連携

家庭や地域・関係機関との連携

学校支援地域本部事業（地域コー

キャリア教育の推進

〈成果目標〉
社会的、職業的自立に向けて、必要な基礎となる能力や態度を身に付け、将来の夢や希望をもつ児童生徒が80%以上

- ◆小・中9年間を見通した「ふるさとキャリア教育プラン」の推進
- ◆キャリア発達の視点を取り入れた授業実践
- ◆ふるさと体験学習を中核とした郷土愛の育成
- ◆職場体験学習による職業観・勤労観の育成
- ◆地域への貢献意欲を高める「子どもハローワーク」の推進
- ◆地域の人材を活用した教育活動
- ◆豊かな体験活動と振り返り

確かな学力の定着

〈成果目標〉
自ら学ぶ意欲をもち、学習したことが「分かる」「できる」と

- ◆胎内市の「授業スタンダード」の実践
 - ・とらえる→考える→学び合う→まとめるの学習過程
 - ・「胎内市の教師10の授業の心がけ」の実践
- ◆担当指導主事の配置と連携
- ◆中学校区での学力の分析と対策
- ◆web配信システムを活用した評価
- ◆小中連携した「家庭学習のしおり」の作成と家庭学習強調週の実施
- ◆個別指導の徹底

いじめ・不登校の根絶

着

特別支援教育の推進

ディネーターの配置)

感じる児童生徒の割合が80%以上

【これまでのNRT】※教科総合の偏差値平均

	H24	H25	H26	H27
小2年	52.5	52.4	54.5	53.9
小3年	50.3	52.6	51.7	53.1
小4年	52.9	50.6	52.2	53.7
小5年	51.4	53.3	51.5	53.5
小6年	51.7	52.2	53.1	51.2
小全体	51.8	52.2	52.6	53.1
中1年	49.1	50.7	50.9	50.6
中2年	49.1	49.2	48.7	49.6
中3年	49.5	47.9	49.2	49.2
中全体	49.3	49.3	49.6	49.8

いじめ・不登校の根絶

〈成果目標〉
昨年度（自校）のいじめの件数が減少
昨年度（自校）の不登校（30日以上）の人数が減少

- ◆学校と教育委員会との情報共有
 - ◆指導主事の学校訪問及び教育相談
 - ◆小中連携しての取組の推進
 - ◆家庭や地域と連携した相談体制の確立
 - ◆体験活動を重視した教育活動
 - ◆関係機関と連携した相談・支援
- ◎胎内市教育の日 10月2日 全小中学校の道徳授業の実施
◎いじめ見逃しゼロスクール集会 10月19日

特別支援教育の推進

〈成果目標〉
学校生活をおくることが「楽しい」と感じる児童生徒の割合が80%以上

- ◆胎内市教育相談体系化連携事業の推進
 - ・教育委員会及び関係機関と連携した、就学前から青年期、成人期以降までの教育相談支援体制
 - ・特別支援教育コーディネーターの研修・スーパーバイザーによる教職員研修
 - ・介助員研修会
 - ・保護者、一般市民を対象とした講演会
- ◆校内のコーディネーターを中心とした相談体制の確立
- ◆「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成と全教職員の共有
- ◆UDL（学びのユニバーサルデザイン）を活用した授業改善
- ◆「リーフレット」を活用した啓発

学校と家庭が連携し、家庭学習の習慣化に力を入れます!

子どもたちに、「生きる力」を育むためには、「確かな学力」を身に付けさせることが大切です。そのために、学校では、一人一人の子どもたちに「分かる・できる」喜びを味わわせる授業改善に力を入れています。子どもたちに、「確かな学力」を身に付けさせるためには、「学校で行うこと」と「家庭で行うこと」の役割を明確にし取り組んでいくことが大切です。

胎内市では、「家庭学習の習慣化」を各学校の共通目標として、小中が連携し取組を進めています。

1 育てたい子どもの姿



2 家庭学習の習慣や方法

(1) 家庭学習の習慣（家庭学習のポイント）

- ① 毎日必ず学習する。(時間を決めて学習することが望ましい)
- ② テレビを見ながらしない。
- ③ 今日、行うことの目標を決めて学習する。

(2) 学年の発達段階による家庭学習の目標

低学年	中学年	高学年	中学生
学校の宿題はできる	学校の宿題は確実にできる	宿題が出なくても基本の学習はできる	自分で内容と目標を決めて学習できる
毎日家でも学習しようという気持ちになる	宿題以外にも少しずつ自主的な学習ができる	自分の興味や必要性のある自主学習ができる	苦手な内容でも繰り返し学習することができる

(3) 家庭学習の時間のめやす

学年×10分（例えば6年生なら6×10=60分、中学生は中1なら7×10=70分）

(4) 家庭学習の方法

国語	算数・数学	社会・理科	英語	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・漢字練習 ・漢字ドリル ・意味調べ ・音読、視写 ・テストの問題をもう一度行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習 ・計算ドリル ・教科の問題の復習 ・問題集 ・テストの問題をもう一度行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読む ・授業中にとったノートを整理し覚える ・勉強したことに関係あることを資料で調べる ・ワーク、問題集 ・テストの問題をもう一度行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・視写 ・単語練習 ・ワーク、問題集 ・テストの問題をもう一度行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書 ・新聞読み ・日記 ・インターネットを利用しての調べ学習

重要 ・テレビの視聴時間の制限 ・情報通信機器の利用時間の制限

胎内市教育相談センターのご案内

(胎内市西条666番地 B&G海洋センター体育館隣の交流棟2階)

☎43-3500

悩んでいること 困っていること ~ 気軽にご相談ください ~

《相談できる日》◇毎週月～土曜日(祝日・お盆・年末年始を除く)

※専任相談員担当: 火・木・土曜日

◇午前9時～午後4時まで

胎内市の授業スタンダード

学力を向上させるために最も大切なことは、教師が児童生徒に「分かる・できる」授業を展開することです。そのために、胎内市の教師は、次のような学習過程を大切にし、授業改善に努めます。

主な学習活動	留意点
1 授業の学習課題（めあて・目標）の確認（とらえる）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の授業の「学習課題」を板書し、授業のねらいにせまる学習課題を明確化する。 ○ 追究意欲を促すような「学習課題」を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「なぜかな？」 「どうしてかな？」 など、疑問を解決したくなるような課題 ・ 「どれかな？」 「どっちかな？」 など、ズレが生じ判断に迷うような課題
2 自力解決（考える）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題を解く、考える、調べるなど、自力解決する時間を保障する。 ※考える場面は、集団での場合もある。 ○ つまづいている子の見取りと適切な支援を行う。 ○ 頑張りやよさを見出し、励ましと称賛を行う。
3 考えの交流（学び合う）	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペアやグループ等で、多様な考えを交流させる。 ※誰とでも学び合うことができるよう、日頃から仲間関係を育てる。 ※考えを交流させる際、可視化したものを用いて交流させる。 ○ 共感的な学びを展開するよう「目と心で聴く」「目と心で語る」「うなずく」「拍手する」など温かく受容的な雰囲気大切に作る。
4 振り返り（まとめる）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題に正対したまとめを、わかりやすく板書し、全体へ確認する。 ○ 今日の授業で、「大切であったこと」「分かったこと」「分からなかったこと」「疑問に思ったこと」などを、自分の言葉でノートに記述させる。

胎内市の教師 10の授業の心がけ!

- ① 学力調査の結果を分析し、指導の改善に生かします。
- ② 「言葉遣い」や「さん付け」など、教師の言葉かけに注意します。
- ③ 学習の取組や態度をほめて、学習意欲を高めます。
- ④ 授業のねらいを明確に意識し、追究意欲を促す学習課題を工夫します。
- ⑤ ノートに今日の学習課題を書かせ、自分の考えをまとめさせます。
- ⑥ 自分で考えたり調べたりする時間を保障し、一人一人の学びを把握します。
- ⑦ 考えをペアやグループで話し合ったり全体で話し合ったりし、考えを深める場を設けます。
- ⑧ 授業の「まとめ」をしっかり板書し、分かったこと、分からなかったことなど、授業の学習の振り返りの場を設けます。
- ⑨ 板書を見れば、1時間の学習の流れがわかるように工夫して書きます。
- ⑩ 授業で使用したノートや家庭学習ノートは、しっかりと確認し、称賛のコメントを記述します。

とらえる ⇒ 「解決の糸口（見通し）をもち、自力で向き合う」

『学習課題』とは？

『学習課題』は、その時間のねらいに迫る中心発問で、その時間で何を考えればよいかを示した内容と捉え、「どうしたらよいか」等といった問いが主になります。（「教育下越」特別号 Teachers'2016 を参照） ※「めあて」・「目標」として、各学校で共通理解を図ることは可能です。

子どもが主体的に授業に取り組むには、学習課題を“自分の問題”として受け止める必要があります。

《学習課題設定のポイント》

- ① 本時のねらいを達成できるもの。
- ② 教科としての価値をもつもの。
- ③ 学習の系統性や子どもの発達段階を踏まえたもの。
- ④ 多様な考えが導き出されるもの。
- ⑤ 驚きや必要感、興味関心、意欲がわく要素を含んでいるもの。
- ⑥ 日常生活と関連性のある身近なもの。

「とらえる」ための3つのステップ

学習課題の確認（とらえる）

ステップⅠ

- 板書の充実と道具の準備（名札、学習の流れ）
- 日付、単元や本時の流れの提示（黒板、ノート）
- 学習課題を行動目標で板書（色の線での囲み）
- 課題の音読等



ステップⅡ

- ノートや掲示物を活用した前時の振り返り（子どもの言葉で）
- 子どもの問いを基にした課題の設定



ステップⅢ

- 個々の問いを全体で共有し、課題を設定

考える ⇒ 「既習経験や知識・技能と結び付ける」
「自力で向き合う」

《既習の知識・技能や経験と結び付けさせるポイント》

- ① 自分ができること、できないこと何かの区別をさせる。
- ② 学習したり、経験したりしたことの中で、何（知識・技能）が使えるのかを考えさせる。
- ③ 結果がどのようになるか、どのくらいになるか、予想させる。
- ④ 方法や結果の予想を互いに交流し、すべての子どもに見通しをもたせる。

《自力解決をさせるポイント》

- ① 時間を十分確保するとともに、個に応じた指導を充実させる。
- ② 何をどれだけすればよいのかを具体的に提示する。
- ③ 机間指導・支援で個々の子どもの見取りを十分に行う。
- ④ 多様な表現方法（文章、絵、図、数式、操作等）を可能にする。

支える

《自力解決を支える教師の構え》

- ① 子どもの実態（子どもの考えが予想できる）を具体的に把握する
- ② 子どもに任せるといふ姿勢（子どもの表現を支援する）を大切にする
- ③ 自力解決を助ける学習用具（具体物や用具・器具）やプリント、ヒントカードを準備する。
- ④ 子どもの情意面での動きを見逃さない。

学び合う ⇒ 「友だちとの考えをつなぎ、考えを深める」

「学び合う」ための3つのステップ

考えの交流（学び合う）

ステップⅠ

- 友だちの意見をしっかり聞くためのルールの徹底（発言者を見る、うなずく、拍手、メモ等）
- ルールに基づいた発言・発表指導の徹底
- 名札等の効果的活用



ステップⅡ

- 集団解決時の目標の共通理解
- 集団学習時のルール設定と徹底
- 友だちと伝え合う際の聴く視点の設定
- 友だちと伝え合う際の話し方の視点の設定
- 全体で共有する場面での適切な助言



ステップⅢ

- 効果的な集団解決の方法の提示
- 発表の際の場所の工夫
- 学習形態に応じた机の位置等の工夫

目の前の子どもたちを起点に!

まとめる ⇒ 「自分の学びを振り返る」

《学習を振り返らせるポイント》

- ① 1時間で学んだことを自分の言葉で表出させる。
- ② 「分かったことを書きましょう」という具体的に書く内容がイメージできるようにする。
- ③ 個々の子どもの分かり方の違いを振り返りから把握する。
- ④ 発表の仕方は、初めは型を示して指導する。
- ⑤ 友だちと協力して導き出された結論が、学級全体の成果として共有されるようにする。
- ⑥ 友だちの頑張りや励ましを受け止め、仲間関係を大切にして、学び合うことよさを実感させる。

「まとめ」のための3つのステップ

振り返り（まとめる）

ステップⅠ

- ノートへの自分の言葉での記入
- 子どもの言葉を使った板書でのまとめ
- 分かったこと、頑張ったことを視点とした振り返り



ステップⅡ

- 振り返りの際の数人の子どもによる発表。よいと思った友だちの考えや意見のノート記入
- 友だちから学んだことを視点とした振り返り



ステップⅢ

- 数人の子どもの発表後、さらにそのまとめを子どもにさせる学習の深まり
- 振り返ったことを子どもに発表させる等の発表者や全体への称賛

『授業とつながる振り返り』のポイント

『振り返り』の視点（例）

- ⇒ 分かったことやできたこと。
- ⇒ 考えたことや感じたこと。

『まとめ』と『振り返り』の役割

- 『まとめ』 ⇒ 「何を学んだのか」を教師と子どもが整理すること。
- ⇒ 学習課題と正対したものであること
- 『振り返り』 ⇒ 向上したことや学び方のよさを子ども自身が振り返ること。

学習課題とまとめをつなぐ板書づくり

～ 子どもの理解や思考の深まりに沿った、「学びの道筋」が見える板書づくり ～

- 考えの関連性や推移が分かる。
- 必要な内容が、適切な情報量で書かれてある。

学習課題とまとめをつなぐ板書づくり（例）

ねらいの具現化
ねらいが達成された姿を明確にする。
◎ どうなっていると「分かっている」「できている」と言えるのか

解決する課題の設定
○ 児童生徒が自力で解決することで、ねらいに近付くことができる学習課題

板書から学びの道筋が見える
○ 学習課題からそのようにしてまとめにつながったのか。
○ 多様な考えがそのように分類・整理されたのか。

学習課題に対するまとめ
※ 「まとめ」から学習課題を考えることも大切
○ 児童生徒に分かる言葉で
○ キーワードを確認して

- * 学習の見通しがもてる
- * 解決する課題や方法が分かる
- * なぜそうまとめられるのかが分かる



【板書例】

1 問題
右の図形の面積は何㎡でしょうか。

2 予想
● 1マスずつ数えれば求められる
● 線を引いて分ければ求められる
● 長方形だったら公式が使える

3 学習課題（めあて）
『長方形の面積の公式を使って求めるにはどうしたらよいだろう』

【Aさんの考え】
ア: $5 \times 3 = 15$
イ: $5 \times 3 = 15$
アとイを合わせて 30cm

【Bさんの考え】
ア: $2 \times 3 = 6$
イ: $3 \times 8 = 24$
アとイを合わせて 30cm

【Cさんの考え】
ア: $2 \times 3 = 6$
イ: $3 \times 3 = 9$
ウ: $3 \times 5 = 15$
アとイとウを合わせて、30cm

【Dさんの考え】
ア: $5 \times 8 = 40$
イ: $2 \times 5 = 10$
アからイを引いて30cm
◇ちがうところ
→長方形をたしている
★よいところ
→見えない長方形を使っている

◆ いてるところ→長方形に分けている
★よいところ→公式が使える

□ 分けることで長方形の面積の公式が使える □ 大きな長方形にして求めることができる

6 チャレンジ
 $3 \times 10 = 30(\text{cm})$

この考えのよいところ
分けた長方形を1つに大きな長方形にして
いるところ
1つの式で求めているところ

7 まとめ
学習課題の面積は、小さな長方形に分ける
★付けたしで大きな長方形をつくる ★動かして1
つの長方形にするなどして、長方形の面積の公式を
使って求めることができる。

8 ふりかえりのキーワード
◇長方形 ◇面積 ◇公式

十月二十四日 火 日番 ○ ○ ○ ○